

年頭にあたって

2024年が幕を開けました。皆様方にはお元気に新年を迎えられましたでしょうか。さて、新年早々連日のように衝撃的なニュースが届いています。

元日に発生した能登半島地震では、石川県などの発表によりますと、5日午前10時現在で、死者数が92人、安否不明の人が242人に上っています。

《昨日は死者84人でしたが、時が経つにつれ被害が拡大しています。》

2日には日本航空と海上保安庁の航空機が衝突し、航空機が炎上する映像が日本中に恐怖を与えました。海上保安庁の職員5人が亡くなりましたが、日本航空の乗客と乗務員379人は全員無事でした。客室乗務員がパニックコントロールをできたこと、自ら判断して開けていいドアを判断し、乗客を避難させたことが大惨事を防いだということです。そして、最後に機長が1列1列確認し、残っていた数人を移動させ、衝突から18分で全員の脱出を確認したのだそうです。《多くの命が救われました》

3日には北九州市小倉で店舗35軒、延べ2900平方メートルが焼けるという大規模な火災がありました。怪我人はでていませんが、現場「鳥町食堂街」は昭和の風情が感じられる木造店が軒を連ね、作家の松本清張ゆかりの中国料理店もあり、市民や観光客に親しまれてきたということです。

今年は辰年です。ご存知のように辰は十二支のうちで唯一の架空の生き物で、中国では縁起が良い干支だという事です。それがこのような年明けを迎えたことで、今年行く末に不安を感じますが、今後は良い話題が満載になることを祈ります。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

本年もよろしくお祈りします

昨年4月より新体制になり9か月が経過しました。まだまだ短期間ではありますが、前任者から引き継がれた内容を継承しながら、新たな取り組みも試行しております。

《本年度よりの活動》

- 定点補導(青パトで巡回しながら、ポイントを絞ってその場に留まり、一定の時間見守り活動をする)
- 市内小中学校の「あいさつ運動」に、地域の方々と共に参加
- 交番のパトカーと一緒に(協働して)パトロール
- 中学生の校外学習時の移動の際の交通誘導

これらの活動を行うに当たって、服装を目立ちやすいものに改め、青少年育成センターの活動が一目で分かるようにしながら抑止効果も高まるよう模索してきました。

本年もこれらの活動を継続し、より有効で実益のある取組みを進めて参ります。

関係の皆さま方には、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



春から秋にかけては胸に「防犯」の文字と、背中に「浅口市青少年育成センター」の文字が入ったブルーのベストを着用しています。

秋から冬にかけては背中に「浅口市青少年育成センター」の文字の入ったグリーンのジャンパーを着用しています。



人権週間(12月4日~12月10日)の取り組み

市内の各小学校を訪問していると、写真のような掲示物を多く見かけました。これは人権週間の取り組みで、友だちの良いところを見つけて、みんなで共有するというものです。

どの言葉も小学生らしく、純粹で素直な感性が光っています。



金光小学校

- ★ いつもぼくとあそんでくれてありがとう
- ★ ○○くんへ そうじがんばってるね
- ★ 落ち込んでいる時なぐさめてくれてありがとう
- ★ いつもひとをわらわしていてすごいね
- ★ 運動神経がいいところがいいですね
- ★ 字が丁寧ですごいよ
- ★ いつも給食を全部たべてすごい



吉備小学校

- ★ 先生のお話をきくときのしせいがいいね
- ★ いつもすすんで水やりのボランティアをしてくれてありがとう
- ★ 分からないところがあったら教えてくれてありがとう
- ★ 先生だけじゃなく地域のひとにもあいさつしていてすごいね

子どもたちは本当にお互いをよく見ていて、大人からすると「当たり前」のような行動もちゃんと評価してあげています。逆に言うところいう「当たり前」のことを、大人が認めて褒めてあげることが、子どもたちの自己肯定感につながるのではないのでしょうか。

「普通」のことや「当たり前」の事を認め、称賛して欲しいという子どもたちからの訴えにも感じられます。だって大人はいつも「当たり前のことを当たり前にしなさい！」と言っているのですから、できたら「当たり前」に評価してあげないといけませんね(^ ^)v

～自分で決めることの大切さ～

優しい笑顔の女子が、私が顧問をする部活に入部して来ました。運動はあまり得意ではありませんでしたが、休まず練習に励んでいました。ところが2学期になり急に部活動に出て来なくなり、学校も休むようになりました。父親からは『部活の練習が厳しく、長すぎるのが原因だ』と叱られました。直接彼女から不登校の理由を聞かないまま、何とか学校に来られるようにと、家族と相談して次のような強引なやり方をしました。

朝、無理やり母親が制服を着せて学校に連れて来て、駐車場からは私が車から引きずり出し、地面に這いつくばる彼女を引きはがして教室に連れて行くというやり方です。無茶なやり方だとは自覚しながら、一か月ほど続けました。そして、その頃になって母親がこんな強引なやり方を提案した理由を話してくれました。『自分が若い時に動けなくなって入院し、看護師さんにベッドから出るように言われました。でも、いくら頑張っても自分では本当に体が動かなかったのです。だから無理にでも娘を連れ出そうとしたのです。娘に同じ苦しみを経験させたくなかった』と言うのです。優しいお母さんがなぜ？と思っていたのですが納得しました。しかし、母親は言いました『先生もういいです。娘には娘の考えがあるのでしょうか。これからは本人の思うようにやらせます』と。

それから彼女は1年生の間は不登校のまま過ごし、2年生になって、自分で『図書室なら行ける』と言って図書室で自習を始めました。そして、2学期には『保健室なら行ける』と言って、次は保健室に入りました。3年生になってからは『もう教室には入らず、卒業までここで勉強します』と言って、自分のペースで休まず保健室で過ごしながら学習を続けました。そんな彼女でしたが中学校を卒業後は岡山市内の高校に進学し、自分の夢を実現するために大学に進学して、大学卒業後はやりたい仕事を数々やり、現在では幸せな家庭を築いています。

(文責：大島)

周囲の大人が子どもの意思を確認しないまま大人の考えを強引に押し付けるのではなく、子どもが自ら考えて、自ら答えを見つけ出すことが自律への近道なのですね！